

平成24年10月22日

公益財団法人
船井情報科学振興財団御中

シカゴ大学経済学研究科
潮田佑

2012年度派遣奨学生第一回報告書

シカゴは朝晩の冷え込みが厳しくなり、キャンパスも紅葉の盛りです。渡米から二ヶ月が経過するにあたり、留学準備やシカゴでの学習と生活の状況を報告させていただきます。

1. 留学準備

私が具体的に経済学大学院への留学を考えはじめたのは大学3年生の冬頃です。東京大学の経済学部では卒業生の9割が就職するので、私も多くの友人と同じように就職活動を行っていたのですが、平行して取り組んでいたゼミ活動や、開発経済学や計量経済学の授業により興味をそそられることが多く、もう少し深く勉強してみるのも悪くなさそうだと考えました。その際、東京大学の経済学研究科から少なくない数の大学院生が海外の博士課程に毎年進学していたので、海外に留学することは自然な選択肢でした。その後、行動経済学に関する卒業論文を書きながら、本格的な研究者を目指すことに決めました。この論文で大きな結果を得ることはできませんでしたが、演繹的な理論に基づくモデルや、厳密な統計的手法を用いて人間行動に迫ることに、経済学ならではの大きな魅力と発展性を感じたからです。

欧米の経済学大学院を目指す場合、絶対に必要なのが推薦状です。特にランキングで上位20校に名前を連ねるようなトップスクールに合格するためには、「国際的に学界で名前を知られている」経済学者に、自らが研究者



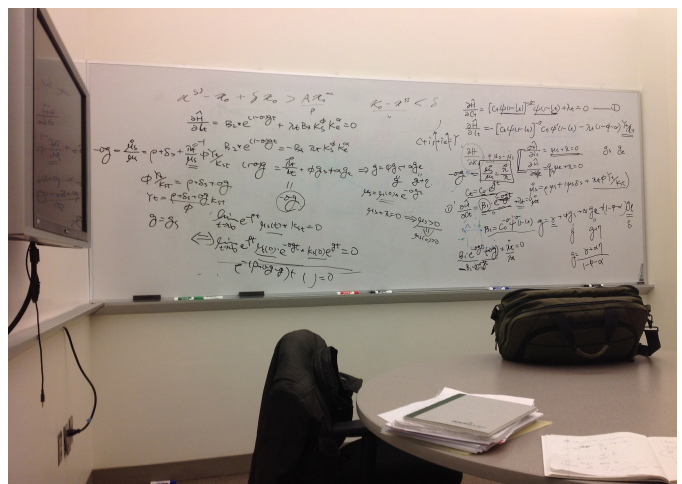
として成功する可能性を「具体的な根拠に基づいて」記してもらう必要があるようです。逆に、これと TOEFL の基準さえ満たせば、他の要素は人文科学などの他分野ほど重視されないと言われています。しかし、良い推薦状をもらうのは簡単なことではありません。学部生のうちから大学院の授業で優秀な成績を残したり、一流学術誌に掲載されるレベルの論文を書けたりすればよいのですが、早い段階で研究者を志した学生を除き、経済学部生が研究を始めるのは一般的に自然科学の学生よりも遅いので、多くの学生は一旦国内の大学院修士課程を経ることになります。私も、東京大学の経済学研究科に進学し、一年間のコアコースを経て、世界的な理論経済学者である指導教官のもとで修士論文を書き上げました。

一旦国内の大学院を経る学生も、入学までに TOEFL の点数を 100 点まで上げておくと出願準備がスムーズに進むようです。逆に TOEFL の点数が低いと、研究に割く時間が減ったり、出願できる奨学金や研究機関が限られたりするという弊害が生じるようです。私自身は大学の教養課程で一時期集中的に英語を勉強したり、学部 3 年生のときに一年間休学して留学したりしたこともあり、出願作業中に英語で苦しめられることはありませんでした。

例え万全の準備をしたとしても、入学選考の可否は運に左右されることも多いと思います。私がシカゴ大学に合格できたのは、先生方の強い推薦状に加えて、経済学界で日本人の評判が高くなっていることにも関係があるかもしれません。ここ 5、6 年ほどの間にアメリカの大学院を修了した若手日本人研究者のすばらしい研究実績（とそれにとまなうトップスクールへの就職実績）が、追い風を起こしているとしても不思議はありません。

2. 学習・生活状況

全てのアメリカの経済学大学院において、一年目は基礎科目の習得に費やされることになっています。このコアコースと呼ばれる基礎科目群をシカゴ大学は非常に重視することで有名です。昔ほど厳しくなくなったとはいえ、膨大な量の問題を毎週解いて提出しなければならず、例年 15% ほどの学生が成績不振で留年するので、全く気を抜けません。私も本授業が始まってまだ 3 週間ですが、日付が変わる頃まで図書館にこもる毎日です。それでも、一人で解いては終わらせるのが難しい問題量なので、「スタディ・グループ」と呼ばれるものを複数の



学生で形成して、一年間ともに学習することになります。このスタディ・グループは教授陣からも奨励されており、授業によってはグループで共同の答案を提出してもよいことになっています。シカゴ大学の経済学部は、アメリカ国籍の学生が約2割しかいない国際的な学部なので、必然的にスタディ・グループも多国籍になります。事実、私も現在イタリア人とポルトガル人の三人でほぼ毎日放課後を過ごしています。

大学院を修了する際に結局重要なのは研究内容なので、この一年間の成績は長期的にはあまり影響しないのですが、成績不振だとそもそも研究を始めることができない上に、教授陣の心証やオフィスの割り当てなど細かいところに響いてくるので、全く手を抜くことはできません。私も必死に食らいついて、この一年間を乗り切るつもりです。

学期が始まってから市内中心部に出かけることはなくなりましたが、大学から電車またはバスで20分強の道のりなので、ほどよい距離感と言えます。シカゴには美しい建築や有名な美術館、劇場、音楽堂などが多く存在し、上級生の中には刺激的な生活を求めて市内中心部に住む学生もいるようです。各種催し物も頻繁に開催され、無料の野外コンサートを楽しむ市民の姿をミレニアム・パークで目にすることができます。



また、シカゴはオバマ大統領の地元としても知られています。貧困地区の社会福祉事業に従事し、ハーバード大学のロースクール修了後、シカゴ大学のロースクールで憲法の上級講師として勤務しています。2008年には勝利演説をグラント・パークで行っており、私の周囲の友人も現在の選挙戦でオバマを応援している者が少なくありません。このようにシカゴには見所が多いので、学期が終わって、またシカゴの街を散策できるのを楽しみにしております。

以上ご報告とさせていただきます。末筆ではございますが、このような機会をいただいたことを改めて感謝し、今後とも勉学・研究に励む所存です。日本も秋が深まってきたと伺っております。財団の皆様もお体に気をつけてお過ごしください。